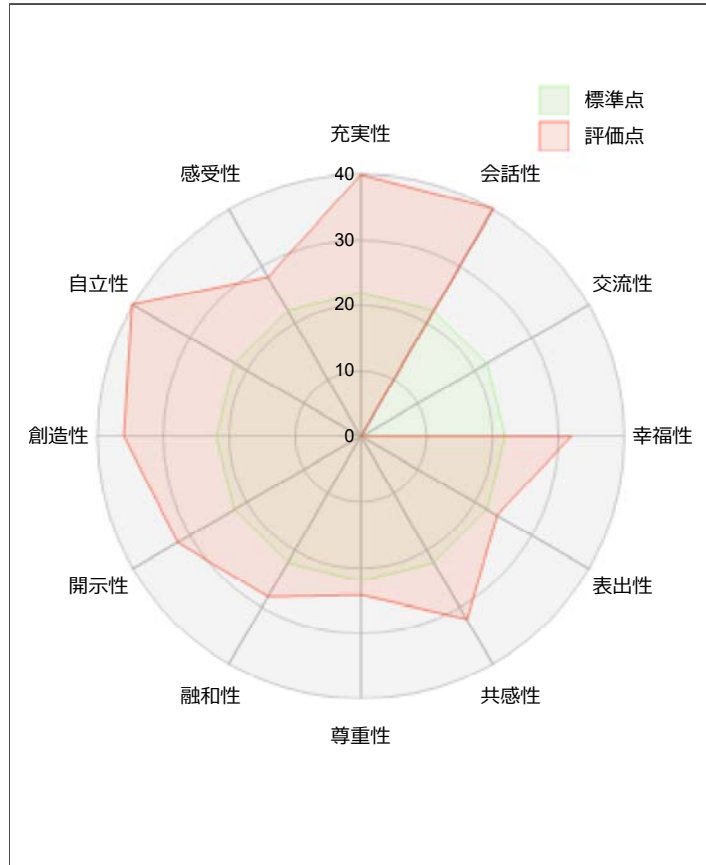


名前 様



充実性	会話性	交流性	幸福性	表出性	共感性
40	40	0	32	24	32
尊重性	融和性	開示性	創造性	自立性	感受性
24	28	32	36	40	28

コミュニケーション構造の分析

	100	90	80	70	60	50	40	30	20	10	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100		
個人型																							交流型
理論型																							感情型
保守型																							発展型
独立型																							調和型
不充足																							充足

【個人型か、交流型か】一人の世界を好む個人型か、多くの人と交流を求める交流型か

弱い交流型です

他人と交流することも楽しいのですが、一人でのいることも楽しいと感じるタイプです。そのため、友人を増やすことに、それほど積極的ではありません。その代わりに、一人の時間を楽しむことができます。友人も多く、一人の時間も楽しめるといったバランスのとれた状態です。無理をすることなく、自然体のままで、あなたらしい豊かな世界を育てましょう。

交流型

6.7

【理論型か、感情型か】理性的な理解が優勢な理論型か、感情の交流が優勢な感情型か

弱い感情型です

他人との感情交流がしっかりとでき、親しい人間関係をつくりやすいタイプです。ただ、理性的な面も強いので、自分の思いに合わない人を受け入れない傾向があります。そのため、交流の範囲が限定されることとなります。少し頑固なところがあることを意識してください。時には、自分の頑固さを反省して、他人を素直に受け入れる努力をしてみましょう。そうすれば、さらに豊かな人間関係を作ることができるでしょう。

感情型

40

【保守型か、発展型か】自分の世界をそのまま保とうとする保守型か、変化させ拡大しようとする発展型か

弱い発展型です

自分の世界に多くのものを取り入れようとする姿勢はありますが、自分の世界を大切にしたいという気持ちも強く、多くの人の世界を自分の中に取り込むことにためらいがあります。そのため、他人との交流は少し限定されます。自分の世界をより充実させるためには、ある程度のこだわりが必要です。自分なりの豊かな世界を作り上げることを目指せば、周りとの関係は必要に応じてできてきます。

発展型

46.7

【独立型か、調和型か】自分の思いを貫こうとする独立型か、周囲の人たちとの調和を重視する調和型か

独立型の典型です

独自の世界が非常にしっかりしていて、他人に合わせることはできません。また、他人との深いつながりを煩わしいと感じる傾向があり、親しい友人や家族であっても、親密な関係になりにくいタイプです。自分が一匹狼タイプであることをしっかりと意識し、周りの人が自分から離れていくことを覚悟してください。しかし、独自の世界を確立することができれば、必要な人間関係は確保されます。ですから、自分の世界を確立することを、ひたすら目指しましょう。

独立型

90

【充足度】現在の自分の在り方に、どれほど充足感を持っているか

充足感が非常に強い状態です

現在の自分の生き方に十分な手応えと生きがいを感じています。ただ、少し自信過剰な面もあるようです。対人関係においては、自分を押しつけすぎないことが大切です。

充足

100

	名前	あなたの解説
<p>尺度の解説</p> <p>充実性</p>	<p>現在の自分に充実感を持っているかどうかを見るもの。充実性が高い場合、現在の自分に自信があり、何に対しても積極的に関わり、前に進めていこうという意欲に溢れている。コミュニケーションが豊になる。充実性が低い場合、自分に自信がなく、何に対しても消極的。</p>	<p>Satisfaction</p> <p>自信に溢れていて、すべてに積極的に関わっていく意欲に満ちています。ただ、少し自信過剰な面があり、自分の思いですべてを判断する傾向があります。そのことに注意してください。</p>
<p>会話性</p>	<p>普通の何気ない会話をする意欲がどれほどあるかを見るもの。会話性が高い場合、何気ない会話をするのを楽しんでいるため、会話の量が多くなり、コミュニケーションも豊富になる。会話性が低い場合、何気ない会話を苦手と感じていて、必要なこと以外は話さない。そのため、会話の量が少なくなる。</p>	<p>Conversation</p> <p>会話をするのが楽しく、誰とでも気軽に話せます。ただ、少し話すぎの傾向があります。他人の話を聞くことも大切だということを忘れないでください。</p>
<p>交流性</p>	<p>他人と一緒にいることを、楽しいと感じるか、苦痛と感じるかを見るもの。交流性が高い場合、大勢でいることを楽しいと感じ、多くの人と一緒にいたいと思う。そのために、コミュニケーションがとても活発なものになる。交流性が低い場合、他人と一緒にいることに苦痛を感じるため、多くの人と一緒にいるだけで疲れてしまう。そのために、一人でいることを好むようになり、コミュニケーションが極端に少なくなる。</p>	<p>Relationship</p> <p>他人と付き合うことに苦痛を感じるから、いつも一人でいたいと思っています。親しい友人との付き合いでも、長時間になると苦痛になってきます。また、家族であっても、長く一緒にいると居心地が悪くなり、一人になりたいという気持ちが強くなります。</p>
<p>幸福性</p>	<p>基本的信頼感が豊かであるかどうかを見るもの。幸福性が高い場合、自分に対しても、世界全体に対しても、肯定的に捉える気持ちが強く、すべてを前向きに受けとめて、前進させていこうとする意欲に溢れている。そのため、対人関係は円満になり、コミュニケーションも活発になる。幸福性が低い場合、否定的な見方が多くなり、悲観的に考えたり、批判的に見るものが多くなる。そのため、人間関係は緊張感の高いものになり、コミュニケーションも素直でないものになる。</p>	<p>Happiness</p> <p>肯定的な見方が優勢で、さまざまなストレスにも負けることがなく、すべてを前向きに進めていくタイプです。ただ、自分の世界を疑うことが少ないために、自分とは違う世界を生きている人の心を受け入れることが、うまくできないという一面があります。</p>
<p>表出性</p>	<p>感情表現が豊かであるかどうかを見るもの。表出性が高い場合、感情表現が豊富で、とても親しみやすい印象なので、コミュニケーションをとりやすい。表出性が低い場合、理性的な会話が多くなるために、親しみやすさは少なくなるが、しっかりした議論ができるようになる。</p>	<p>Expression</p> <p>自分の心の中の感情が素直に表に出てきません。感情表現が少なく、会話が理性的なものになっています。世間話のようなおしゃべりは苦手、議論のような論理的な会話を好むタイプです。</p>
<p>共感性</p>	<p>他人の感情を十分に受けとめることができるかどうかを見るもの。共感性が高い場合、他人の感情を素直に受けとめることができるので、心のつながりを深めることが容易にできる。共感性が低い場合、他人の感情を受けとめることができないために、心のつながりをつくりにくく、独りよがりという印象を持たれることが多くなる。</p>	<p>Sympathy</p> <p>他人の感情が素直に自分の心に入ってきて、他人の気持ちがよくわかる人です。周囲の人は、気持ちをわかってもらえるので、あなたと一緒に話をするのを楽しみと感じます。</p>

名前

様

あなたの解説

尺度の解説

尊重性

自分とは違う他人の行動に対して、他人の立場を尊重して、その行動を受け入れることができるかどうかを見るもの。尊重性が高い場合、他人の行動や仕事の仕方を見ても、その人にはその人なりのやり方があると、尊重して受け入れることができる。そのため、対人関係は円満になり、心のつながりを深めやすい。尊重性が低い場合、自分の思いが優先して、他人の行動を自分の基準に合わせようとする。そのために、押しつけがましいと思われることが多くなり、対人関係は緊張感の高いものになる。

Respect

他人の行動が自分の思いと違っていると、気になって仕方がないというタイプです。口出しできるときには必ず口を出して、行動を変えさせようします。そのために、口うるさい人という印象を持たれるでしょう。

融和性

自分の生活文化を他人と融合するときにストレスを感じるかどうかを見るもの。融和性が高い場合、生活の中に新しいものを取り入れることが好きで、他人の文化と融合することが容易なので、コミュニケーションを深めやすい。融和性が低い場合、自分の生活に他人が近づいたり、深く入ってくることに強いストレスを感じる。そのため、コミュニケーションを深めにくくなる。

Harmony

自分の世界に対する愛着があり、それを保持したうえで、自分の世界に適したものを取り入れて、変化していこうとしています。しっかりと個性がありながら、柔軟さも持っています。バランスの良い状態です。

開示性

個人の内面を表に出すことにストレスを感じるかどうかを見るもの。開示性が高い場合、個人のプライベートな情報を開示することにストレスがなく、とても開放的な人となる。そのため、コミュニケーションを深めることが容易にできる。開示性が低い場合、プライベートな情報を開示することに強いストレスを感じるため、秘密主義の人という印象になる。そのために、簡単には近づけない、親しくなることが難しいという感じとなり、コミュニケーションを深めにくい。

Disclose

プライベートな情報の交換が気軽にできます。自分から積極的に話すわけではありませんが、尋ねられれば、こだわりなく話せます。そのために、親密な人間関係をつくりやすくなっています。

創造性

自分で考える傾向が強いのか、他人任せにする傾向が強いのかを見るもの。創造性が高い場合、自分で考える傾向が強く、何に対しても自分なりの考えが出てくる。そのため、その人の本質と結びついた、しっかりしたコミュニケーションをとることができる。創造性が低い場合、自分で考えることをせず、すべてを他人任せにする傾向がある。そのため、その人の本質が曖昧になり、コミュニケーションの基礎がはつきりしなくなる。

Creativity

独自の思いが非常に強く、自分の思いを基準にして行動しようとする意欲に溢れています。そのため、自分の思いを通そうとして、周囲の人と衝突することが多くなります。しかし、豊かな世界を持っているので、相互理解ができれば深い関係を築くことができます。

自立性

周囲の評価や感想に縛られない、自由な心を持っているかどうかを見るもの。自立性が高い場合、周囲の評価に左右されることなく、自分の生き方を不安なく貫くことができる。そのため、対人関係では、冷たい人、他人のことを考えない人という印象になる。自立性が低い場合、周囲の評価を気にする気持ちが強く、他人に合わせようとするが多くなる。そのために、自分の気持ちを抑えすぎて苦しくなったり、依存的な人間関係を築くようになる。

Freedom

一人であることに不安がなく、支えを必要としないタイプです。また、親密な人間関係を煩わしく思う気持ちが強いために、できるだけ他人との関わりは持ちたくないと考えています。

感受性

喜びや悲しみを受けとめることが十分にできるかどうかを見るもの。感受性が高い場合、いろいろなことに感動する心を持っており、話題が豊富。コミュニケーションも豊かになる。感受性が低い場合、好き嫌いがはっきりしているので、話題が偏り、コミュニケーションの幅が狭くなる。

Feeling

感受性が豊かで、いろいろなものに感動する活発な心を持っています。しかし、興味・関心の幅は、少し限定されているようです。そのために、関心のないものには心が動かないということになり、対人関係の幅も限定されることとなります。